

鼻アレルギーの全国疫学調査 2019（1998 年， 2008 年との比較）：速報—耳鼻咽喉科医およびそ の家族を対象として

出典	日本耳鼻咽喉科学会会報 2020;123(6):485-490 (http://search.jamas.or.jp/link/ui/0/)
著者	松原 篤 他
調査地域	日本全国
調査時期	2014 年 9 月
調査対象	全国の耳鼻咽喉科医およびその家族を対象とした鼻アレルギーの全国疫学調査
依頼数	10,984 通
有効回答数 または回収率	43.2%(4,749 通/10,984 通 19,859 名)
診断方法	本人，配偶者，両親，子供について耳鼻咽喉科医が回答
有症率	0-4 歳 通年性 AR5.1%、スギ花粉症 3.8%、スギ以外花粉症 2.6% 5-9 歳 通年性 AR20.9%、スギ花粉症 30.1%、スギ以外花粉症 17.4% 10-19 歳 通年性 AR38.5%、スギ花粉症 49.5%、スギ以外花粉症 33.8%
調査概要	1998 年、2008 年にも耳鼻咽喉科医へのアンケート調査が行われているが、1998 年よりも 2008 年、2008 年よりも 2019 年の方がアレルギー性鼻炎の有症率は高値であった。なかでもスギ花粉症の増加が著しい結果であった。